

感染症拡大下における大学間単位互換事業のふり返りと今後の課題

Review and Future Issues on the Interuniversity Credit Transfer Activities under the Spread of Infectious Diseases

阿部 一晴^{*1}, 安福 裕一郎^{*2}, 安部 明雄^{*2}, 吉田 真士^{*2}
Issei ABE^{*1}, Yuichiro YASUFUKU^{*2}, Akio ABE^{*2}, Makoto YOSHIDA^{*2}

^{*1} 京都光華女子大学 キャリア形成学部

^{*2} 公益財団法人大学コンソーシアム京都 教育事業部

Email: i_abe@koka.ac.jp

あらまし: 大学コンソーシアム京都における大学間連携主要事業に、加盟大学等による単位互換がある。単位互換専用に企画された科目の他、各大学が相互に提供する科目等から構成されている。例年多くの学生が参加するが、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う教室での対面授業への制約等から例年とは異なる運用を余儀なくされた。このような状況での実際の受講状況、例年との比較等を通じて見出された単位互換事業の可能性、課題等について報告する。

キーワード: 単位互換授業, 大学間連携, コンソーシアム, 感染症拡大

1. はじめに

大学コンソーシアム京都は、1998 年 3 月に文部大臣（当時）より財団法人（2010 年より公益財団法人に移行）としての設立認可を受けた。法人格を持つ大学コンソーシアムとして、全国最大規模の事業を展開している。この中でも加盟大学相互の単位互換事業は、財団の前身である「京都・大学センター」設立当初に開始された中核事業である。提供科目数も減少してはいるが、現在も 400 科目前後で推移している。ピーク時は年間のべ 10,000 名を超える受講者があったが、ここ数年受講者数は縮小傾向にある。

2. 単位互換事業の概要

大学コンソーシアム京都が実施している単位互換事業は、他大学が開講する科目を履修し、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度である。

表 1: 単位互換事業の推移(2012～2020 年度)

年度	協定大学	提供大学	提供科目	出願者	履修者
2020	45	38	401	1,111	687
2019	45	40	415	1,405	1,271
2018	45	40	427	1,984	1,842
2017	46	40	435	2,549	2,400
2016	48	41	457	3,369	3,120
2015	48	43	589	3,615	3,412
2014	48	44	516	5,287	4,702
2013	50	46	540	5,754	4,952
2012	51	45	551	6,055	5,601

この単位互換事業には、約 50 大学・短期大学が単位互換包括協定を締結し、毎年 400～450 科目前後を提供している。受講者数は、ピークであった 2001 年度にのべ 14,000 名を超える出願、10,000 名を超える受講があった。

ここ数年の推移を見てみると、2017 年度は 435 科目を提供し 2,400 名が履修、2018 年度も 427 科目を提供したが、履修者数は 1,842 名とこれまでより大

幅に減少した。2019 年度は 415 科目の提供、1,271 名の受講であった。2020 年度は感染症拡大という事態に直面し、後述のとおり出願者数、履修者数は例年より大幅に減少した。(表 1)

これとは別に「京(みやこ)カレッジ」という名称で提供している社会人向けの生涯学習に毎年約 1,500 名前後の出願があり、このうち一部科目は単位互換事業に相乗りという形での受講となっている。こちらも 2020 年度出願者数、受講者数ともに例年より大幅に減少した。(表 2)

表 2: 京カレッジ(生涯学習)事業の推移(2012～2020 年度)

年度	科目 提供 大学等	提供 科目数	出願 科目数	出願者数						一人あ たり併 願科目 数	受講 許可 者数
				＜実数＞			＜延べ数＞				
				前期	後期※1	合計	前期	後期	合計		
2020	29大学 2機関	224科目	97科目 前期95科目	627名	7名	634名	1070名	25名	1,095名	1.7科目	723名
2019	31大学 2機関	257科目	122科目 前期122科目	812名	7名	819名	1,558名	12名	1,570名	1.9科目	1,329名
2018	34大学 2機関	274科目	120科目 前期115科目	773名	14名	787名	1,407名	15名	1,422名	1.8科目	1,297名
2017	30大学 2機関	276科目	127科目 前期121科目	1,048名	7名	1,055名	1,655名	24名	1,679名	1.6科目	1,315名
2016	31大学 2機関	314科目	154科目 前期149科目	812名	21名	833名	1,576名	34名	1,610名	1.9科目	1,292名
2015	34大学 2機関	449科目	178科目 前期174科目	809名	10名	819名	1,921名	25名	1,946名	2.4科目	1,743 名
2014	34大学 1機関	373科目	172科目 前期169科目	698名	18名	716名	1,701名	47名	1,748名	2.4科目	1,525名
2013	36大学 1機関	428科目	194科目	506名	16名	522名	1,074名	40名	1,114名	2.1科目	-
2012	36大学 1機関	469科目	228科目	596名	18名	614名	1,265名	62名	1,327名	2.1科目	-

3. 感染症拡大の単位互換事業への影響

2020 年度の単位互換事業において、加盟校から 401 科目の提供があった(2019 年度は 415 科目)。出願者数は延べ 1,111 名であった(2019 年度 1,405 名で 294 名減(▲21.0%))。多くの大学で例年より出願者数が減少したが、一部少数の大学からの出願者は増加した。特に学生数の多い大規模大学からの出願者数の減少が目立った。

受入者数(実際に単位互換授業を受講した学生数)は延べ 687 名(2019 年度 1,271 名で 584 名減(▲46.0%))と出願者よりも更に大幅な減少となった。出願者数に対する受入者数の割合は 61.83%であった(2019 年度は 90.5%)。これらの結果から、2021 年度の大学コンソーシアム京都における単位互換事業は、規模という意味で例年とは大きく変化した(従来の延長線上にはない)ことが示されている。

出願者数、履修者数ともに大きく減少した要因は主に、新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの大学において一定期間の休校やオンライン授業への変更措置などが講じられ、単位互換においても送出および受入が中止、あるいは大幅に縮小されたことであると考えられる。

2020 年度単位互換提供科目数は、2019 年度から 14 科目減少の 401 科目となり、過年度からの減少傾向は続いている。これは、各大学におけるカリキュラムポリシーに基づく科目の充実や単位互換履修の条件設定等の影響、履修登録期間の厳格化、近年に見られた新学部学科認可審査における包括的な単位互換科目への指導の影響による受講可能な学生数の母数減少があるとみられる。更に、2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、多くの科目において不開講あるいは提供取りやめが発生し、このことが履修者数の大幅な減少に繋がったと考えられる。

4. 単位互換授業の提供形態等の変更

2020 年度開講直前に全国を覆った新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大学コンソーシアム京都加盟大学をはじめ全国の大学では、行事や授業運営等において例年とは大幅に異なる取り組みを余儀なくされた。筆者の所属大学でも、3 月 26 日に入学式・オリエンテーション(新入生・在学生とも)の中止、前期授業開始を当初予定の 4 月 6 日から 4 月 20 日に延期することが決定された。その後、4 月 20 日からの前期授業は当面教室での対面授業とはせず、遠隔授業(オンライン)としておこない、5 月 11 日から対面授業を再開する(4 月 3 日決定)、前期期間中はすべて遠隔授業(オンライン)とする(4 月 24 日決定)といったとおり、感染状況の変化に伴い方針も刻々と変化した。多くの大学でも同様であったと思われる。

こういった各大学の授業運営方針等の変更に伴う単位互換事業への影響について、加盟大学に確認をおこなった。(表 3)

表 3：2020 年度単位互換事業状況調査への回答

提供を予定していた科目	364
全ての回をオンライン授業に変更し提供した科目	161
一部オンライン授業に変更し提供した科目	58
提供を中止した科目	118

単位互換事業で提供される授業は、プラザ科目と呼ばれる大学コンソーシアム京都が主管となり単位互換専用の科目としてキャンパスプラザ京都で開講される科目と、オンキャンパス科目と呼ばれる科目開設大学のキャンパス、教室で開講される科目から構成される。ここでの各大学からの回答はオンキャンパス科目に関するものである。提供予定科目数 364 と提供中止科目数 118 の差である 246 科目が 2020 年度単位互換として実際に提供できたものであると考えられる。提供予定科目の 32.4%という提供中止率は、データがないため正確な比較はできないが、大学における授業全体で見るとかなり高めである(感染拡大が理由で開講できなかった科目はここまで多くない)と考えられる。

提供された科目のうち 65.4%が全てオンラインで授業実施、23.6%が一部オンラインで授業実施、残り 11.0%が全て対面授業ということであり、オンラインでの授業実施が多かったことがわかる。対面授業であれば、単位互換受講生を授業実施教室に迎え入れるだけで受講としては成立するが、オンライン授業の場合、受講のためのアカウントや各種リソースへのアクセス権等自大学学生以外の受講環境を整えるのは容易ではない面もあり、このことが単位互換科目提供中止率の高さに繋がった可能性もある。

5. まとめと今後の課題

これまで述べたとおり、2020 年度は感染症拡大の影響から多くの単位互換科目で急遽オンラインで授業が実施された。多くの大学でオンライン授業のための設備や支援体制の整備等も進み、2021 年度も一定数のオンライン授業が開講される見込みである。単位互換事業においても、オンライン授業がもつ「受講機会拡大」「教育の質向上」の可能性を重視し、オンライン授業の単位互換提供を促進するためのソフト面として、新たな補助金の枠組みを制定した。

前述のとおり各大学のオンライン授業環境に他大学学生を単位互換生として参加させることが容易ではない場合も多い。大学コンソーシアム京都の単位互換事業では、2011～2018 年度フル e ラーニングによる授業の提供をおこなった。この間、合計 103 科目の e ラーニング科目の提供をおこない、のべ 4,757 名の受講があった。この実績と経験を活かし、オンラインによる単位互換提供のハード面として、新たに大学間の共通プラットフォームを提供していくこと等も検討していきたいと考えている。

参考文献

- (1) 阿部一晴, 馬渡明, 福廣張順: “大学間単位互換 e ラーニング授業の課題と展望”, 教育システム情報学会, 第 44 回全国大会講演論文集, pp.373-374 (2019)
- (2) 大学コンソーシアム京都 2020 年度事業計画書, 公益財団法人大学コンソーシアム京都 (2020)
- (3) 公益財団法人大学コンソーシアム京都, <http://www.consortium.or.jp/> (2021)